

## 12. おわりに

本資料では、建築設備の性能検証の普及を願い、代表的な設備機器及び制御について具体的な性能試験法を示した。本資料は、建築設備に関する高度な専門的知識を持っていない方でも性能試験ができるように、できる限り具体的に方法論を書き込むことを目標に掲げた。しかし、まだ完璧ではなく、一部不明瞭な箇所も残っている。今後も本資料は継続して更新していかなければいけないが、その際の議論に資するように、残された課題を以下に列記する。

- ・ 建築物のエネルギー消費量に大きな影響を与える照明設備の制御については未検討である。
- ・ 各制御における一般的な方式について性能試験法を規定したが、全ての制御方式を網羅しているとは考えられず、抜けている方式は多々あるであろう。制御方式について調査を行い、特殊なものは除き、代表的な制御方式については網羅できるように拡張を図る必要がある。
- ・ 運転データの処理方法について、本資料では単に「計測し、データを整理する」と記されている場合が多いが、この「整理」には高度なノウハウが必要となる場合があり（例えば、運転状態が安定していない時間帯のデータを削除して分析する、頻繁に状態が切り替わる場合は15分程度の平均値で分析するなど）、この具体的な処理について更に書き込む必要がある。
- ・ 計測について、必ずしもセンサーを設置する必要はなく、別の計測値から推測する方法もあり得る。例えば、配管内流量は、ポンプのインバータ値と消費電力から推定することができる。計測コストを下げられるためにもこのような方法による推定は重要であり、この具体的方法について明記する必要がある。
- ・ 真に省エネルギー化を達成するためには、性能試験だけではなく性能向上のための作業（最適化や不具合検知）も必要であり、これらについての方法論も規定する必要がある。